

## 校長室から 保護者版 文責 校長 堀 富雄

## 夢を実現するために

3年生は卒業まであと28日、1・2年生は進級まで39日となりました。

1年間のまとめをする時期です。新学年に向けて新たな目標を設定するため、落ち着いて自分の心を見つめましょう。

1月9日(祝)に「20才のつどい」がありました。卒業して5年経った生徒たちに再会。先生方からのメッセージや卒業アルバムの写真が会場に映し出されました。司会進行は新成人が行います。実行委員が控室に挨拶に来てくれました。教頭時代に社会科の授業で教えていたので名前を言って話しかけられたら当時の記憶が蘇りました。新成人の「誓いの言葉」は本当に素晴らしかったです。現在、成人年齢は18才ですが、20才というけじめの年に誓いを立てることの大切さを感じました。3年ぶりに5つの中学校がそれぞれの学校ごとに写真撮影を行い、天気も良く、感慨深い素晴らしい一日となりました。

中山和義さんの本『大切なことに気づく24の物語』から、素敵な話をご紹介します。ある少年が高校を卒業と同時にマイナーリーグに入りました。しかし、肩の故障のため一度もメジャーリーグでプレーすることなく、すぐに引退することになってしまいました。野球選手になることをあきらめた彼は、その後大学に入学して教師の資格を得て、ある高校の先生になりました。高校野球の監督になった彼は、生徒のやる気を高めるために、「もし、君たちが優勝したら、もう一度プロテストを受ける。」と約束しました。生徒は彼の狙い通りにがんばりました。その結果、優勝してしまったのです。彼は約束通り、プロテストを受けたところ、合格しました。マイナーリーグのスタートでしたが、間もなくメジャーリーグに昇格し、さらに人々の記憶に残る活躍をしました。「35歳で高校教師から大リーガーに転進した男」としてマスコミに注目をあびた彼の自伝は、全米ベストセラーになり、映画化された“オールド・ルーキー”も大ヒットしました。これは、ジム・モリス投手の話です。いくつになっても夢をあきらめない気持ちが大切だと思いました。夢が人を裏切るのではなく、人が夢を裏切るのだと思います。

人生で一番もったいなことは、過去の経験にとらわれて“自分には無理だ”と思い込むこと。人生で一番大切なことは、未来の自分を信じて“自分にはできる”と思い込むこと。どんなことに対しても自分には可能性がないと断定することはできません。自分には可能性がないという思い込みが、力を発揮させていないだけです。

随筆家の高橋歩さんは「夢は逃げない。逃げるのはいつも自分。」と言っています。

では、夢を実現するためにどんな努力の仕方をしたら良いのでしょうか。

私は、自分を良くしたいと思ったら、まず、周りを良くする努力をすることが必要だと思います。「他人はともかく、自分のやりたいことをしたい。」というのは、いかにも個性を尊重しているようですが、それはわがままの裏返しにすぎません。自分をより良くしたいと思ったら、他人のために献身的に努力することです。他人のために献身的に働くことが損なことだと考えるのは間違いです。それが、自分を良くしていく唯一の道です。自分のことだけ考える人は、自分が何か成し遂げようとする時、誰も手助けしてくれません。

いつも、みんなのことを考えて動いて、一生懸命手助けする人は、困っているとみんなが手助けしてくれます。小さな夢や目標でも大きな夢や目標でも、自分だけの力で成し遂げることではできません。どんなことでも、誰かの手助けがあって成し遂げることができるのです。このことを頭に入れて行動しましょう。

## 【1月の入賞】

☆女子ソフトテニス部 兵庫県地区対抗ソフトテニス大会 優秀選手賞 瀧本千宝

☆陸上競技部

第58回揖龍中学校男子新人駅伝競走大会 第19回西播地区中学校新人駅伝競走大会

男子の部 第2位

区間賞 1区 2位 丸山遥大  
2区 1位 河崎優太  
5区 1位 山本翔太  
6区 1位 福井裕月



男子の部 第2位

区間賞 1区 2位 丸山遥大  
2区 2位 河崎優太  
5区 1位 福井裕月

第19回西播地区中学校女子ロードレース選手権大会 1,2年生の部 3位 藤木陽菜乃